

多其廣後白其全

16
依湖文庫
二十

5
1139
16

輟可集

碑石集収事

催主

波静
 官青
 裡快

補助

楚后流
 我秋
 素銭
 来置
 五嶺
 僻山

位於くあへる庵や山はくは
 旭うらあふいもなりむもふ
 名月やうへり高き秋の空
 揚善方のむもくもく雲の雪

無為秋風

東都下谷入谷村正洞院境内
 寛政元巳酉載中秋多々庵連中建之



多少庵句集は毎庵
 多少庵秋風吹るやわが心
 四より過庵く清き乃好以を極む
 井ろ清き人の心くを然し果て
 ときくく東庵の心くを然し果て
 庵をわくわく風を世をわくわく
 清涼三伏の心くを然し果て
 庵をわくわく風を世をわくわく

萬の世に於ては人の心は
 常に變化するものなり
 故に其の心を正す
 こと最も要なり
 此の心を正す
 には、
 一、心を正す
 二、心を正す
 三、心を正す
 四、心を正す
 五、心を正す
 六、心を正す
 七、心を正す
 八、心を正す
 九、心を正す
 十、心を正す

[illegible]

高き山に雲を巻く如く
清き水に月を映す如く

勝花 雲月



友人 子山



多少の春の句集



春之歌

君は代や一歩了着き門の松
庭了物枝の倒しやも川端
杉井や二月の雪をく先
神龍の夢や少里も新橋
声もくく見や松之も川端

隠家の年々花や福寿草
年玉の花や抱へし燈の枝
雪のふりし花の細やも葉の
新しき花や抱へし花の葉
も葉の葉の葉を詠ふ人誰
上臈の花は花より花の葉
も花の花の葉の葉の葉
任訓し花の葉の葉の葉

花の葉の葉の葉の葉
花の葉の葉の葉の葉
花の葉の葉の葉の葉
花の葉の葉の葉の葉
花の葉の葉の葉の葉
花の葉の葉の葉の葉
花の葉の葉の葉の葉
花の葉の葉の葉の葉
花の葉の葉の葉の葉
花の葉の葉の葉の葉

川下へ柳も長く春の風
廣き形へ春の風
春の風や氷も春の風
春の風の羽も春の風
それ／＼の春の風
初年や江戸の柳を社
初年や江戸の柳を社
初年や人の名も春の風

初年や江戸の柳を社
初年や江戸の柳を社
初年や江戸の柳を社
初年や江戸の柳を社
初年や江戸の柳を社
初年や江戸の柳を社
初年や江戸の柳を社
初年や江戸の柳を社
初年や江戸の柳を社
初年や江戸の柳を社

猶つと池にさしを切き
羅紗のやうく風も所々に
一膳に何十年の羅紗像
持事一悟の底に羅紗の南
草野のやうにさけ見れぬ風波の
夕暮の空にたうた草野の南
流もても心とさうな蛙可南
よん雨のうたに森とさうな蛙可

谷川に様の流れを解く風
浦にさすの南のさすう風
相のさすの細くさすの
それ今起る紙に紙の
お枝のさすの都に離さう
さすのさすのさすのさすの
相の子も離れ一膳をさす
此代にさすのさすのさすの

出代やあられとれり
晴ぬ木の多うて枝一初櫻
花もまゝとふあうと
来し来し、涙を流し一初櫻
咲連く文をよみささく
あゝせくと来て桜を
酔いゑお櫻、ふの志き
櫻うと、あまきとふ桜の陰

桜の道を通の里、
正に東の初一山
春あーむふり、
笑声あまき、
果てあまき、
あまき、
あまき、
山寺を流く、
山寺を流く、

歩けりもれ——不機の山路は
日——く山——く——て機可南
坪へ今——草鞋——機——
西——く——の機ゆ山——
雲深の——悔——山——
来——く——人——
時——く——山路や——
山——く——く——

洞——く——く——人の顔
ま——く——のく——
ま——く——く——
雲——く——く——
雲——く——く——
山——く——く——
山——く——く——
山——く——く——

和歌の情むるる歌は
嵯峨と湯の湯と多きは
以て物大さか海をふり
見えしは海の子は
現と海をわたり
世に一つ花を散らし
その海の子と
川雁や鳥の鳴く
の音

和歌の情むるる歌は
嵯峨と湯の湯と多きは
以て物大さか海をふり
見えしは海の子は
現と海をわたり
世に一つ花を散らし
その海の子と
川雁や鳥の鳴く
の音

川をわたりてかきつる峰の
りきと頭をさすの中なる

山をわたりてかきつる峰の
りきと頭をさすの中なる

夏之部

河原へ杖をたててきく
間へも月と入るるに都
る二月へも月と入るるに
来世とさうぬ佛のきく
庫裏へ杖をたててきく
のきく物とさうぬ清水

文へハ草のそり清ふき
追へり袖をかきまき
量えのねわねへき
田うねへ細くねへ飛
夕雲の内を眠り古き
夕顔や曇るゝ船へき
夕顔や小舟の杖に風
ゆふや月影へき

藤やものきふさう
新田の鶴川へ月一
新田やふさう二
藤やものきふさう
新田やふさう五
新田やふさう六
新田やふさう七
新田やふさう八
新田やふさう九
新田やふさう十

馬車いせきして上戸やかんこ
 轡車 海に属するらんこ
 新植の梅いさぎよく
 竹塚の一角に立つ
 朝六の橋の南に夏の旅
 岸の海に面する
 町中へ風の音と
 大勢の民の抱く

昔の人の心をくちくちとけし
五月のやうな心も
さうさう一本の
盆の心も
さうさう一本の
盆の心も
さうさう一本の
盆の心も

植ゝての風をぬく門の
蝉啼や糸の音も ね 薙
木のはら合の音や夏の声
禅もくらの音や蝉の声
井へ入るの夢はききと葉の
葉の心花の縁り人の心
起る来く通る心と花の蓮の花
武蔵の心と心と物なき心と風

湖んくもあつと黒い風
古き石の縁り心と氷心
花の時常あつと涼・角
涼・さやうと心と心一本
心の時常あつと涼・角
けこの心と心と心一本
心と心と心と心と心一本
心と心と心と心と心一本

昨の作道一日のち 甲子
月一見て六月五日凌宵花
夏はく終の足く 清後く
移さひの言しるありや清後く
好くくくくくくくくくくく

秋之部

秋の初く下清く今秋の秋
羅を肌くくくくくくく
くくくくくくくくくくく
葉やくくくくくくくくく
初白くくくくくくくくく
あきなるくくくくくくく

新穀の金環くも風のうら
謂も中荒かこー星うら
軍令の川に伝ふくはー守
あけかき花の姿やま葉葉
新穀の金環くも風のうら
あけかき花の姿やま葉葉
あけかき花の姿やま葉葉
あけかき花の姿やま葉葉
あけかき花の姿やま葉葉

新茶の長麗の姿うら
能ひるいゆせやう魂
地でも乾くぬきやう魂
あけかき花の姿やま葉葉
あけかき花の姿やま葉葉
あけかき花の姿やま葉葉
あけかき花の姿やま葉葉
あけかき花の姿やま葉葉
あけかき花の姿やま葉葉

……ふふと一目く……ふふと一目
滑る……ふふと一目く……ふふと一目
ハ……ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目

……ふふと一目く……ふふと一目
滑る……ふふと一目く……ふふと一目
ハ……ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目
ふふと一目く……ふふと一目

待ふ初雪ふりそ月と雪
遠あつ物と色一今月
玉川のちと限る月
名月お初とさき秋の空
柳のちとさき秋の空
羽のちとさき秋の空
何とさき秋の空
夕暮とさき秋の空

野分と月と雪と秋の空
小男麻や啼叫とさき秋の空
錦木とさき秋の空
穂とさき秋の空
啼初とさき秋の空
初雁とさき秋の空
雁とさき秋の空
初雁や桂男の橋とさき秋の空

空く一巾内は路一雁の声
初はや秋一葉も葉の草
うらも中へさきかへし
雲刈一傾く一葉の葉山より
所へ一へて一葉はつよき葉に
云へ一葉も一へし一葉に
眠く人へも一へし一葉に
旅床一へて一葉をさき葉に

木書の四葉は指を芭蕉の如
木本の葉へ一へて一葉をさき
人聲の鳴る一葉の葉に
秋の節や一葉へ一葉に
葉へ一へて一葉の葉に
木本へ一へて一葉の葉に
葉の葉に一葉へ一葉に
葉へ一へて一葉の葉に

人中人をも放りて菊合
 余所の菊にんて自ら庭を掃き
 色はくもあな菊を誦る
 三つ月に入事なり菊の全
 二室人菊の庭をわ後の月
 葉は今夜中より後の月
 寂しき月影にわ後の月
 西をてて月影にわ後の月

余今入讀をりてあな
 菊をわきよけはと一語
 古也く古き言ひてあな
 長流の終をわ今朝の露
 三つ月に入事なり菊の全
 二室人菊の庭をわ後の月
 葉は今夜中より後の月
 寂しき月影にわ後の月
 西をてて月影にわ後の月

……
渚と渚のせめくちりー海流は
照つてさうさうとあつて今朝の
床迄に白くあつて床のま
じやうや床をさされいと寝
いさうーまのまの殿
あつたのねを巡るわいお
初まう今年まの花も
床をさうさうとあつて
旭の風

川をさうさうとあつて
あつた川をさうさうとあつて
あつた川をさうさうとあつて
あつた川をさうさうとあつて
あつた川をさうさうとあつて
あつた川をさうさうとあつて
あつた川をさうさうとあつて
あつた川をさうさうとあつて
あつた川をさうさうとあつて
あつた川をさうさうとあつて

花のまゝにふりしるすゝ
人のまゝのりしるすゝ
ふりしるすゝ
浪のまゝにふりしるすゝ
川の流れをふりしるすゝ
花のまゝにふりしるすゝ
花のまゝにふりしるすゝ
花のまゝにふりしるすゝ

花のまゝにふりしるすゝ
花のまゝにふりしるすゝ
花のまゝにふりしるすゝ
花のまゝにふりしるすゝ
花のまゝにふりしるすゝ
花のまゝにふりしるすゝ
花のまゝにふりしるすゝ
花のまゝにふりしるすゝ

飄々として中をせむを祈る
からるゝ年の中きゝをきき
情けぬ雀のさやまの梅
梅や雪一り雪降ふその月
才歌の古も其は昔もを
紙より目のさかぬま
雪を雪川に流れてきゝを
静さや年の月峰きゝの

餅花々として花の櫻々々
可々年々として花々々
立込歌をきゝをきゝ
物世々々として花々々
年々々々として花々々
雪々々々として花々々
氷の今年々々として花

